

# 平成26年2月大雪における 山梨県の積雪と北杜市高根町の除雪状況

松本 精一

## 1. はじめに

平成26年2月に山梨県は大雪にみまわれた。この大雪は、2月15日に甲府で114cm(既往最大値は49cm)、河口湖で143cm(同89cm)に及び、観測史上第1位となった。

本報告は、100年に1度の大雪の状況と、14日には隔週で帰宅する日であったが降雪で帰宅できず、20日に帰宅するまでの実家の山梨県北杜市高根町小池地区(標高650m)の除雪状況等を報告するものである。

## 2. 大雪の状況

甲府と河口湖の2月7日～2月28日の積雪深の推移を図-1に示す。2月8日の降雪は甲府で43cm、河口湖で65cmを記録した。小池地区でも積雪が50cmほどになり、JR中央線が運休、中央高速が通行止めになって、2日間ほど地域は孤立した。この積雪深は、甲府では120年間の観測記録で5位、河口湖では81年間の観測記録の6位で当たっている。

2月14～15日にまた雪が降った。この時の積雪深は、14日午前11時に甲府11cm、河口湖48cm、午後5時に44cmと74cm、午後11時に76cmと98cmとなり、甲府、河口湖ともに、既往最高の平成10(1998)年1月15日の49cm、89cmを上回っていた。この雪は、15日午前9時に甲府114cm、河口湖143cmになり既往最高値を記録した。小池地区でも積雪深が120～130cmになった。

甲府の積雪深は、その後17日に50cm台に、21日に30cm台、23日に10cm台になり、25日に雪が消えた。一方、河口湖では、7日に100cm台に、21日に80cm台、23日に70cm台、28日の夜中に40cmになり、3月になっても積雪が続いている。小池地区の積雪深も河口湖の積雪深より少し少ないがほぼ同様に推移している。甲府と河口湖・大泉の積雪深の推移に差がでるのは、甲府の標高が273mに対して河口湖・

大泉が標高約860mであることから約5の温度差によっている。

## 3. 交通状況および除雪体制

山梨県は四方を高山に囲まれているため他都県に連絡するルートは、東の東京方面から北の長野県にはJR中央線、中央高速道路、国道20号線が、南の静岡県にはJR身延線、国道52号線の3ルートがある。この3ルートは甲府に集まり、山麓地区に道路網が結ばれている。

北杜市高根町の交通は、JR中央線の長坂駅、中央高速道長坂インター(長坂IC)と、長坂駅・長坂ICを結ぶ県道長坂高根線の他、黒沢線、国道141号があり、市道には蔵原線、幹線道や地区内道路で構成されている。この道路等は、管理者により除雪等の管理が行われている。

山梨県等の地域防災計画では、積雪深10cmで注意体制、積雪深20cmで警戒態勢、積雪深30cmで非常態勢に入り、除雪作業を行うとしている。また、JR、中央高速道ではそれぞれの基準で除雪を行っている。なお、北杜市では、地区の除雪を行う委託業者を定めており、小池地区および蔵原地区の除雪はN土木が行うと聞いている。

## 4. 東京と家をつなぐ除雪状況の整理

東京から北杜市の家に帰るには、長距離ルートの確保と駅から家をつなぐ地域ルートの確保で可能になる。このルート確保の状況を整理すると表-1となる。

中央高速道路は2月18日に通行止めが解除(1車線)されたが、長坂ICは接続する長坂高根線の除雪が遅れているため出入りができず、19日の夕方に入出りが可能になった。また、JR中央線は19日に、特急は20日に運転された。これらにより、山梨県の「陸の孤島」は解消された。一方、県

図-1 平成26年2月の甲府・河口湖の積雪深の推移

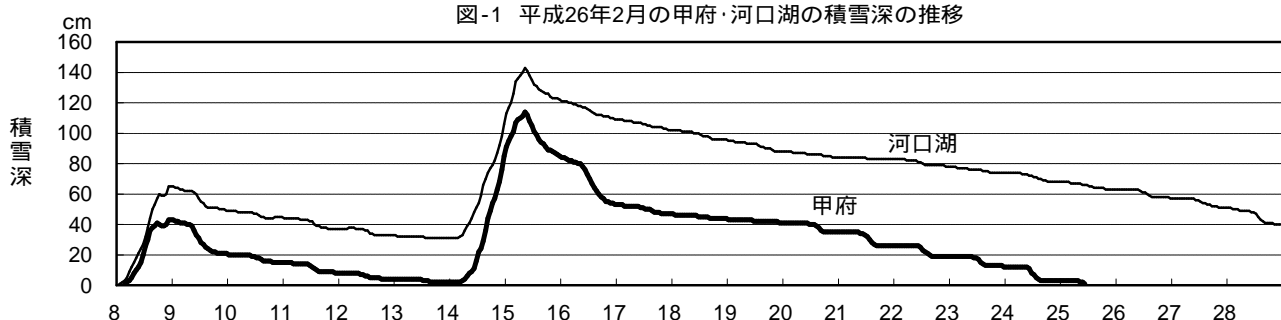


表-1 東京と山梨県北杜市との交通確保(除雪)状況

	2月14日(金)	2月15日(土)	2月16日(日)	2月17日(月)	2月18日(火)	2月19日(水)	2月20日(木)	2月21日(金)
甲府の積雪深	11 (44)	114	84	53	47	43	41	38
河口湖の積雪深	48 (74)	143	121	109	102	95	88	85
中央線 特急あずさ	夜中に運転休止	全線運休(除雪を行う)	同左	同左	甲府・小淵沢間 運転開始	山梨・東京全線 開通(1時間1本)		
中央道 長坂インター	午後から一部区 間で通行止め	全線通行止め (除雪を行う)	同左	23:00通行止めの 解除	同左	同左	18:00乗り入れ禁 止の解除	
国道141号線	除雪計画による 除雪開始	除雪の継続。箕 輪新町・長野県 境間が通行止め	同左	同左	箕輪新町・長野 県境間の通行止 めが解除			
県道長坂高根線 (B=6.0m)	除雪計画による 除雪開始	除雪の継続	同左	このころまでに1 車線開通か	1車線通行	石川県の除雪車 が除雪、2車線確 保、18:00解除		
黒沢線 (B=5.5m)	除雪計画による 除雪開始	除雪の継続	同左	このころまでに1 車線開通か	1車線通行	同左	同左	長野の除雪車が 除雪、2車線確保
広域支援農道 (B=5.5m)		雪に埋もれる。	同左	このころまでに1 車線開通か	1車線通行	同左	同左	長野の除雪車が 除雪、2車線確保
幹線道路 (B=4.5m)	除雪計画による 除雪開始	集落孤立 除雪の継続	同左	1車線化がほぼ完 了	四駆で通勤を行う 人がいた			待避所を作る。
地区内道路 (B=3.0m)		雪に埋もれる。	集落内の機械に よる除雪	1車線化がほぼ完 了		市外の機械で公 会堂などを除雪		
家の状況		家に缶詰状態	安否確認の人が 通路除雪をして、 確認に来た。			夕方、機械で車 庫前の除雪	JAの車が家に来 る。夜、東京から 家に着く。	軽トラでスーパー に買い出し
2月14日の積雪深は、11時積雪深(17時積雪深)を示す。								

下の各地で孤立集落が問題化した。

地域の道路は、降雪以降地域防災計画に基づき1車線を確保する除雪を行っていたが、降雪量の多さから18日ころに完了した。長坂高根線では石川県・新潟県の除雪車が投入されて2車線化が図られた。また、黒沢線と広域農道は、長野県の除雪車が投入されて21日に2車線化が図られた。

地区内の道路は、16日から地区内のバックホーや降雪以降の地域防災計画による除雪も蔵原地区からの片押し方式での除雪で、結果として各戸に除雪道路(1車線)を付けるのに4日間ほどの時間が必要であった。結果として、20日に東京からJR中央線特急あずさ号、普通車、長坂駅からタクシーで小池地区の家に帰ることができた。

2月17日から21日の地域の道路状況を図-2~5に示す。図に1車線部分は、対応車があった場合にはすれ違いに時間を要していた。

5. 2月22日の小池地区の状況と農業被害

積雪の1週間後の2月22日においても小池地区の水田は厚い雪で全てが埋もれており(写真-1)、除雪された道路の1車線幅のアスファルトだけが姿を見せていた。

また、家の屋根は南側の雪は一部落ちていたが、北側には厚い雪が残っていた。



写真-1 小池地区の水田写真(2月22日)  
水田は棚田で畦畔高は1mほどである。

山梨県は、ブドウやももに代表される果樹農業が営まれており、大雪によるハウス倒壊などで被害が出た。しかし、北杜市の農業は、米と野菜が中心で、一部にリンゴ、ブルーベリーが栽培されている。小池地区ではビニールハウスが4棟ほど倒壊したが、市全体では多数にのぼっているだろう。北杜市は八ヶ岳南麓の高冷地にあるため、雪解けが遅れると、高原レタス・キャベツの定植など春作業に影響が出る(なお、3月12日現在でも水田・畑には積雪が残っている。)

図-2 2月17日の道路状況

図-3 2月18日の道路状況

図-4 2月20日の道路状況

図-5 2月21日の道路状況

